

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り



平成 30 年 9 月 3 日 (NO.113)

浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所

地域総ぐるみで子育てを

■先日の新聞で、コミュニティ・スクールが急増していることが報道されていました。

平成 29 年 3 月の法改正により、学校運営協議会の設置が努力義務化したことにより、設置校は右肩上がりが増え続けています。

子どもへのきめ細やかな目配りや学校の安全確保等に地域住民との連携は不可欠であり、全国の 3 割に当たる 532 市区町村及び 18 道府県の教育委員会がすでに導入しています。

幕別町教育研究所から視察

■7月27日、幕別町教育研究所の佐藤充弘所長(白人小校長)をはじめ所員の皆さんが来町され、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の進め方について協議しました。

主な協議事項は次の通りです。



幕別町教育研究所との交流

① 教育大釧路校との連携について

⇒ 宮前准教授やゼミ生による通楽(学)合宿の指導、農林漁家への民泊学習、浦幌中学校活性化発表会参加、地域おこし協力隊員としてうらほろスタイルサポートなど、浦幌町の人づくり・地域づくりに多大な協力をいただいている。

② CS の進め方について

⇒ 幕別町も同じく、まず学園方式による小中一貫教育から着手した。

三鷹市や品川区の先進地視察、文部科学省 CS マイスターや慶応大学准教授を招聘した研修などをもとに、9年間を見通した「学校教育目標」や「目指す子ども像」、アクションプラン作成のための熟議を重ね、当事者意識の高揚に努めてきた。

PDCA サイクルに基づいた学園・学校評価の評価・改善を重視している。



幕別町教育研究所の皆さんと

③ 地域人材の発掘について

⇒ 社会に開かれた教育課程の編成・実施を目指し、各学園・学校において年度当初に教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確立するための計画を作成する。運営協議会委員が中心となって学校のニーズに応じたボランティアを発掘している。今後ますますカリキュラムマネジメントを重視し、地域の教育資源を生かした教育活動を行っていく。